

## 金沢大学に対する改善報告書検討結果

＜大学評価実施年度：2021年度＞

＜改善報告書検討実施年度：2025年度＞

金沢大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、2点の是正勧告及び3点の改善課題の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

なお、末尾に記述するように、前回の評価結果において指摘のあった「基準4 教育課程・学習成果」について、検討の結果、改善が認められたことから、当該大学は内部質保証の状況を踏まえた評価の弾力的措置に係る要件ア)～ウ)を満たしている。

### ＜改善に向けた大学全体の取り組み＞

内部質保証の推進に責任を負う「大学改革推進委員会」を中心に点検・評価を実施し、「教育企画会議」「教務委員会」「FD委員会」及び「教学マネジメントセンター」と連携した内部質保証体制を構築している。2022年度は、3つの方針に基づく教育の内部質保証の体系的な再整備に着手し、中央教育審議会大学分科会大学教育部会のガイドラインに則り、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び学生の受け入れ方針の一貫性・整合性を考慮して「教務委員会」を中心に学内規程「3つのポリシーの策定又は見直しに係る手順」を策定し、項目の記載・見直しを行った。2023年度は、「金沢大学における教育の内部質保証に関する指針」を策定して、学生調査等の体系性を一覧化して、教学IRの機能を明確化した。併せて、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの体系的再構築を行った。2024年度にかけては、大学評価での指摘事項に対する改善後の取り組みを再点検している。このように、各課題の改善に着実に取り組み、新たな仕組みづくりを通じて持続的な内部質保証の向上に努めている。

### ＜是正勧告、改善課題の改善状況＞

提言の改善状況から、改善の成果が概ね表れているといえる。

改善課題については、教育課程・学習成果における教育課程の編成・実施方針の問題や学生の受け入れにおける定員管理の問題に関して、今後もさらなる改善に努めることが求められる。

個別の提言への改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、各提言に対する検討所見のとおりである。なお、前回の大学評価時には指摘対象となっていなかった事項について、今回の改善報告書提出時には提言に相当する問題が生じているため、検討所見を参照し、次回の大学評価に向けて改善に取り組むことが求められる。

1. 是正勧告

No	種 別	内 容
1	<p>基準</p> <p>提言（全文）</p>	<p>基準4 教育課程・学習成果</p> <p>自然科学研究科の全ての専攻の博士前期課程・博士後期課程、医薬保健学総合研究科医学専攻博士課程では、研究指導計画として研究指導の方法及びスケジュールを定めていない。また、医薬保健学総合研究科医科学専攻修士課程、同創薬科学専攻博士前期課程・博士後期課程、同保健学専攻博士前期課程・博士後期課程、同薬学専攻博士課程、先進予防医学研究科先進予防医学共同専攻博士課程及び法学研究科法学・政治学専攻修士課程では、研究指導のスケジュールを定めていないため、これを定めあらかじめ学生に明示するよう是正されたい。</p>
	<p>検討所見</p>	<p>理事（教育担当）より、事例を提示し、自然科学研究科の全ての専攻の博士前期課程・博士後期課程、医薬保健学総合研究科医学専攻博士課程の研究指導の方法及びスケジュールを定めるよう指示し、医薬保健学総合研究科医科学専攻修士課程、同創薬科学専攻博士前期課程・博士後期課程、同保健学専攻博士前期課程・博士後期課程、同薬学専攻博士課程、先進予防医学研究科先進予防医学共同専攻博士課程及び法学研究科法学・政治学専攻修士課程には研究指導のスケジュールを定めるよう同様に指示している。</p> <p>これを受け、各研究科にて研究指導の方法及びスケジュールを策定し、教育担当理事へ報告の後、「教務委員会」を経て、「教育企画会議」で審議・承認した。</p> <p>学生には、履修案内、研究科のホームページ等において、「研究指導の方法（及び内容）」及び「スケジュール（スケジュールの計画）」を公表・明示しており、改善が認められる。</p>

金沢大学

No	種 別	内 容
2	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	医薬保健学総合研究科医科学専攻修士課程、同創薬科学専攻博士前期課程、同保健学専攻博士前期課程、新学術創成研究科ナノ生命科学専攻博士前期課程及び同融合科学共同専攻博士前期課程では、研究科規程において特定の課題についての研究成果によって審査を行うことができることを規定しているが、特定課題の研究成果の固有の審査基準を定めていないため、是正されたい。
	検討所見	<p>理事（教育担当）より、医薬保健学総合研究科医科学専攻修士課程、同創薬科学専攻博士前期課程、同保健学専攻博士前期課程、新学術創成研究科ナノ生命科学専攻博士前期課程及び同融合科学共同専攻博士前期課程に「特定課題の研究成果の固有の審査基準」の作成を指示しており、事例を提示し、履修案内、研究科 Web サイト等による学生への明示を指示している。</p> <p>これを受け、各研究科にて「特定課題の研究成果の固有の審査基準」を策定し、教育担当理事へ報告の後、「教務委員会」を経て、「教育企画会議」で審議・承認した。</p> <p>学生には、履修案内、新学術創成研究科、医薬保健学総合研究科保健学専攻のホームページ等において、「特定課題の研究成果の固有の審査基準」を公表・明示しており、改善が認められる。</p>

2. 改善課題

No	種 別	内 容
1	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	学位授与方針について、人間社会環境研究科人文科学専攻博士前期課程、同経済学専攻博士前期課程、同地域創造学専攻博士前期課程、同国際学専攻博士前期課程、同人間社会環境学専攻博士後期課程、自

金沢大学

		<p>然科学研究科数物科学専攻博士前期課程・博士後期課程、同物質化学専攻博士前期課程・博士後期課程、同機械科学専攻博士前期課程・博士後期課程、同電子情報科学専攻博士前期課程・博士後期課程、同環境デザイン学専攻博士前期課程・博士後期課程、同自然システム学専攻博士前期課程・博士後期課程、医薬保健学総合研究科創薬科学専攻博士後期課程、同薬学専攻博士課程及び法学研究科法学・政治学専攻修士課程では、授与する学位が複数存在するものの、修得すべき知識、技能、能力等の当該学位にふさわしい学習成果の書き分けがされていないため、改善が求められる。</p>
検討所見		<p>理事（教育担当）より、該当する 14 課程に「授与する学位ごとにふさわしい学位授与方針」の作成を依頼するとともに、全学域・研究科の 3 つのポリシーの体系的再整備を行うことを事例と共に指示した。</p> <p>これを受け、各研究科にて「学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針」を策定し、教育担当理事へ報告の後、「教務委員会」を経て、「教育企画会議」で審議・承認した。なお、改善課題として指摘を受けた専攻のうち、自然科学研究科電子情報科学専攻博士前期課程・博士後期課程、同環境デザイン学専攻博士前期課程・博士後期課程、同自然システム学専攻博士前期課程・博士後期課程は 2022 年度 4 月をもって、募集停止しており、廃止している。同機械科学専攻博士前期課程・博士後期課程は廃止の後、同名で新設している。</p> <p>廃止となった 3 専攻を除き、人間社会環境研究科人文学専攻博士前期課程、同経済学専攻博士前期課程、同地域創造学専攻博士前期課程、同国際学専攻博士前期課程、同人間社会環境学専攻博士後期課程、自然科学研究科数物科学専攻博士前期課程・博士後期課程、同物質化学専攻博士前期課程・博士後期課程、同機械科学専攻博士前期課程・博士後期課程、医薬保健学総合研究科創薬科学専攻博士後期課程、同薬学専攻博士課程及び法学研究科法学・政治</p>

金沢大学

		学専攻修士課程は修得すべき知識、技能、能力など当該学位にふさわしい学習成果が書き分けられており、改善が認められる。
No	種 別	内 容
2	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	<p>教育課程の編成・実施方針について、人間社会学域学校教育学類、医薬保健学域保健学類看護学専攻、自然科学研究科物質化学専攻博士前期課程、同機械科学専攻博士前期課程機能機械コース、同電子情報科学専攻博士後期課程及び法学研究科法務専攻専門職学位課程では教育課程の実施に関する基本的な考え方が、自然科学研究科自然システム学専攻博士前期課程、同物質化学専攻博士後期課程、同機械科学専攻博士後期課程、同自然システム学専攻博士後期課程、医薬保健学総合研究科保健学専攻博士前期課程及び同博士後期課程では教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を示していないため、改善が求められる。また、教育課程の編成・実施方針について、人間社会環境研究科人文学専攻博士前期課程、同経済学専攻博士前期課程、同地域創造学専攻博士前期課程、同国際学専攻博士前期課程、同人間社会環境学専攻博士後期課程、自然科学研究科数物科学専攻博士前期課程・博士後期課程、同物質化学専攻博士前期課程・博士後期課程、同機械科学専攻博士前期課程・博士後期課程、同電子情報科学専攻博士前期課程・博士後期課程、同環境デザイン学専攻博士前期課程・博士後期課程、同自然システム学専攻博士前期課程・博士後期課程、医薬保健学総合研究科創薬科学専攻博士後期課程、同薬学専攻博士課程、新学術創成研究科融合科学共同専攻博士後期課程及び法学研究科法学・政治学専攻修士課程では、授与する学位が複数存在するものの、当該学位を取得するための教育課程の編成・実施に関する考え方が、書き分けられていないため、改善が求められる。</p>

<p>検討所見</p>	<p>理事（教育担当）より、該当する2学域・5研究科に「教育課程の編成・実施方針」の改善を依頼するとともに、全学域・研究科の3つのポリシーの体系的再整備について事例を示し、指示している。これを受け、各研究科にて「学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針」を策定し、教育担当理事へ報告の後、「教務委員会」を経て、「教育企画会議」で審議・承認した。</p> <p>ただし、改善課題として指摘を受けた専攻のうち、自然科学研究科電子情報科学専攻博士前期課程・博士後期課程、同環境デザイン学専攻博士前期課程・博士後期課程、同自然システム学専攻博士前期課程・博士後期課程は2022年度4月をもって、募集停止しており、廃止している。同機械科学専攻博士前期課程・博士後期課程は廃止の後、同名で新設している。</p> <p>廃止となった3専攻を除き、教育課程の編成・実施方針について、人間社会学域学校教育学類、医薬保健学域保健学類看護学専攻、自然科学研究科物質化学専攻博士前期課程、同機械科学専攻博士前期課程機能機械コース及び法学研究科法務専攻専門職学位課程では教育課程の実施に関する基本的な考え方が定められている。自然科学研究科物質化学専攻博士後期課程、同機械科学専攻博士後期課程、医薬保健学総合研究科保健学専攻博士前期課程及び同博士後期課程では教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を示している。</p> <p>また、人間社会環境研究科人文学専攻博士前期課程、同経済学専攻博士前期課程、同国際学専攻博士前期課程、自然科学研究科数物科学専攻博士前期課程・博士後期課程、同物質化学専攻博士後期課程、同機械科学専攻博士前期課程・博士後期課程、医薬保健学総合研究科創薬科学専攻博士後期課程、同薬学専攻博士課程及び法学研究科法学・政治学専攻修士課程では、教育課程の編成・実施方針について、授与する学位ごとに、当該学位を取得するための教育課程の編成・実施に関する考え方が書き分けられているため、改善が認められる。</p>
-------------	--

金沢大学

		<p>一方、人間社会環境研究科地域創造学専攻博士前期課程、同人間社会環境学専攻博士後期課程、自然科学研究科物質化学専攻博士前期課程及び新学術創成研究科融合科学共同専攻博士後期課程については、授与する学位ごとに、当該学位を取得するための教育課程の編成・実施に関する考え方が依然として書き分けられていないため、改善が求められる。</p>
No	種 別	内 容
3	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	<p>収容定員に対する在籍学生数比率について、医薬保健学域医学類では1.02と高いため、既に教育カリキュラム改革と学生支援強化を行っているが、学域の定員管理を徹底するよう、更なる改善が求められる。</p>
	検討所見	<p>医薬保健学域医学類では、収容定員に対する在籍学生数比率について、1.02と依然として高いものの、留年を防ぐための取り組みや学生支援の強化・見直し、カリキュラム改善の取り組み等を行い、定員管理に向けて取り組んでいる。しかしながら、大学評価時には改善課題ではなかった、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均も1.01と高くなっているため、引き続き改善が求められる。</p> <p>なお、大学評価時には改善課題ではなかったものの収容定員に対する在籍学生数比率が、人間社会環境研究科博士後期課程では、2.39と高くなっており、改善が求められる。</p>

<再度報告を求める事項>

なし

<弾力的措置にかかる要件の充足状況>

弾力的措置にかかる要件	前回の評価結果 における提言	改善状況
ア) 基準 2 「内部質保証」に関し、是正勧告及び改善課題のいずれも提言されていない。	無	—
イ) 基準 4 「教育課程・学習成果」に関し、是正勧告が提言されていない。	有	○
ウ) 基準 4 「教育課程・学習成果」の学習成果の測定に関しては、改善課題も付されていない。	無	—

以上